

伝授!

～指導方法教えます～

本校では、毎週水曜日の朝の時間に「パワープリント」を設定し、基礎・基本の定着に努めている。活用している「パワープリント」は、全年で合計百二十枚の自作プリントである。指導要領をもとに問題を作成してあることで、学習を重ねることに児童は基礎的な力を身に付けていくことができる。



古川市立古川第五小学校
教諭 秋山 治美

児童は、教材文で新しい知識に出会ったときに「説明文は楽しい」と感じることが多い。しかし、説明文を読む楽しさは、新しい知識を得ることだけだろうか。文章を分析し、筆者が自分の考えを伝えるために書いた書き方の工夫を見つけたとき、筆者感動を共有し説明文の学習の楽しさを味わうことができるのではないだろうか。



二 読み取りの「コツ」

「コツ・コツ・マイ・手引き」という冊子を印刷し配布している。これは、「接続語の働き」「要するまでの手引き」など、説明文を読み取る手助けとなる「コツ」を書いたものである。この「手引き」を参考に、児童は文章を分析していく。

児童は、教材文を印刷した「書き込みノート」に、語句の意味や「パワータイム」で学習したこと、「コツ・コツ・マイ・手引き」から得たことなどを書き込んでいく。自ら文章に働き掛け、「自分だけのヒント集」が出来上がっていく。

「あつ、分かった。こんなつぶやきの聞こえる授業を目指し、今後も説明文と向き合っていきたい。」



宮城県立ろう学校
教諭 中村 好則
教科 数学、情報

大学時代の恩師である上越教育大学名誉

教授の古藤怜先生は、数学の理解には、三つのHがあることをよくお話ししていました。一つ目のHは、Handで理解する段階、つまり計算の方法や技能、公式の適用などの形式的な処理が分かる段階です。二つ目のHはHeadで理解する段階、つまり数学的な考え方や意味、構造などが分かる段階です。三つ目がHeartで理解する段階、つまり数学のよさや美しさ、不思議さなどを感得できる段階です。これら三つのHはどれも重要ですが、特にHeartで理解する段階が重要であることを強調されていました。しかし、初任のころは、高等学校に勤務していましたが、まだ若かったこともあり、そのことを意識して指導することはありませんでした。そのことを強く感じるようになったのは、ろう学校に異動してからです。ろう学校に異動した当初は、手話さえ覚えれば、あとは高等学校の経験があるからと、ある程度自信を持って教壇に立ったのですが、生徒に意図したことを十分に伝えることができず、悩む日々が続きました。その原因は、コミュニケーションの問題というよりは、むしろ生徒のHeartを動かすような指導

ができていないことにあったのだと考えて

います。それからというもの、生徒がHeartで感じ、心で理解する指導を目指し実践しています。以下は、その一端です。

一 直接的経験（実験・観察）を取り入れた指導

センサーやコンピュータなどのテクノロジーを活用した実験や観察を通して、現実の事象と数学とのかかわりの理解や、既に学んだ知識や既存の経験との相違や関連の意識化などを目標に指導を行っています。

二 操作的活動（Web教材）を取り入れた指導

Web上の教材を用い、実際の操作を通して、数学的な規則や構造などを主体的に発見させます。

三 他校とのインターネットを活用した協同学習

他校の生徒との意見交換を通して、自分と他の生徒の考え方の比較を行い、自分の考え方の妥当性、有効性などを主体的に学ぶように構成します。

これらの実践は、必ずしも十分とは言えず、困難な点や課題も多くあり、絶えず改善が必要です。しかし、教える側の目標や活動の意図を明確にして指導を行い、実践の結果を評価し、それをもとに次の指導を考えると、活動は、実に楽しいものです。このような活動は、多くの先生方が実施しており、当たり前のようにですが、実際は生徒指導や進路指導、部活動指導などの忙しさを理由に、意外と軽視されがちです。日々の指導の改善を考えることは、指導技術の向上をもたらすし、何よりも教師自身が教えることの楽しさを感得できるよい機会ととらえ、大切にしていきたいと考えています。